

2023.08.26 シニアクラブ Online 会合報告

8月も残すところあと数日、「残暑お見舞い申し上げます」と言うにはもう遅いかと思います。23日が処暑でした。しかし世の中まだまだ「猛暑お見舞い」申し上げなければならないような日が続いています。



今回は「東海道五十三次」シリーズの第3段で裏話となります。6月には広重の浮世絵「東海道五十三次」で江戸から京まで旅をして7月には東海道名所図会で京から江戸に戻ってきました。

• その中で広重の五十三次浮世絵には東海道名所図会を引用した絵が何枚かあることを観てきました。

• 今回は広重より50年も先に生まれた絵師「司馬江漢」（1747 - 1818）<https://edo-g.com/men/view/75> が東海道もの描いており、広重の絵はこれと瓜二つという話です。

北斎に並び浮世絵界の2大巨頭に押されるほどの広重が他人の絵を真似て描いたのか、否、先人の名を騙り広重の絵を真似て描いた偽江漢の仕業だと、それぞれ真偽のほどは謎のままですが、双方対立する主張が述べられていることについて紹介しました。その主張は次のサイトから引用。



- http://koktok.web.fc2.com/hom_page/2004Kokn/kokan53A/T_index.htm
- https://web.archive.org/web/20190330043946/http://www.geocities.jp/web_ukiyoe/kokan.html



広重の浮世絵は版刷りで同じ絵が何枚も売られて多くの人たちがこれを見ていたが、江漢の絵は一枚一枚手書きのため当時ごく限られた人しか見ていないはず。現代になってこの真贋論争が始まりました。

• 【本物説】まだ駆け出しだった時代の広重は版元の指示で江漢の絵を基に描かされた。
• 【偽物説】江漢の絵にしては細かな配慮に欠けた絵で江戸時代を知らない人間が描いている。⇒⇒⇒ 論争結果はど



うあれ広重はこの五十三次物が売れて一躍絵師として有名になり、後世にその名を残すこととなります。

ここまで3回にわたって東海道五十三次浮世絵をみてきましたが、みるたびに新たな発見があります。また改めて見直しをしましょう。

☆ 宮田さんから、足利学校で江戸時代に描かれた名所図会の展示会があって見に行ってきた。現在の旅行ガイドのようなもので各地の様子が細かく紹介されている、との紹介がありました。

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/utsunomiya/20230817/1090015686.html>

☆ 宮庄さんから6月に続き再び出かけた中国深圳の現在について話がありました。前は街の中がガランとしていたが、今回（8月）は多くの人で賑わっていた（理由は不明）。香港-深圳の出入検査口は8か所あるが4か所しか開いていない。深圳滞在 visa も最大5日間と定められ規制が強められている。香港でも北京語利用の場所が増え、中国化がじわりと進んでいる。とのことでした。

☆ 小磯さんはつくば市からの Online 参加で、開催中のねぶたパレードの映像が送られてきました。

今回も参加者が多くはありませんでした。小磯さんのように外出先からでも、そして短い時間でも Online 会合に参加されることを期待しています。お互いのコミュニケーションを深めましょう。

2023.08.27 JVCKW シニアクラブ事務局長 田代 周